

認知症対策に関する 課題等について (案件1)

- ①認知症医療について
- ②認知症ケアについて
- ③認知症の正しい理解について
- ④認知症高齢者を取り巻く環境について

①認知症医療について

課 題

- ◆専門医が少ない
- ◆認知症に関与する医師が少ない
- ◆行動異常のある患者を受け入れる施設が少なく、すぐに受け入れられない状況にある
- ◆歯科の場合、認知症患者に対して関心が少ない

目指すべき状態

- ◆サポート医が日常生活圏域に各1名程度いる
- ◆病院内においてBPSD等の対応に熟知したスタッフが育っている
- ◆どの歯科医においても認知症患者に対応できる

取 組

- ◆在宅医療介護推進部会と共にサポート医を増やす方策を検討する
- ◆多職種連携でBPSD等の対応を学ぶ機会を設ける
- ◆専門職用の認知症ケアパスを作成する

②認知症ケアについて

課 題

- ◆慢性疾患で介護保険利用を始めた後に発症することも多く、ケアマネも認知症に対する理解の促進がなお必要である
- ◆認知症の方や家族が利用できるサービスの把握ができていない
- ◆予防、早期相談、早期診断、早期治療がスムーズに連携できていない

目指すべき状態

- ◆認知症患者の対応に熟知したスタッフが育っている(再掲)
- ◆介護の詳しい情報提供のできる人が生活圏域に存在する
- ◆一般市民・専門職対応用の認知症ケアパスがあり、各病院や相談機関等においても配布ができる
- ◆関係機関、多職種が連携し、予防・早期発見・早期支援体制が強化される

取 組

- ◆多職種連携でBPSD等への対応を学ぶ機会を設ける
- ◆専門職用の認知症ケアパスを作成する(再掲)
- ◆認知症対応施設の見学(グループホーム、病棟など)
- ◆初期集中支援チームの活動を有効に活かすための啓発活動

③認知症の正しい理解について

課 題

- ◆成年後見制度の利用方法など、啓発的な講演会や広報等が不足している
- ◆認知症の方や家族が相談できる窓口の認知度が低い(周知不足も含む)
- ◆市民が認知症のことを身近なこと、自分事としてとらえ切れていない

目指すべき状態

- ◆認知症サポーター養成講座等を大半の市民が受講し、認知症の理解が深まっている
- ◆気軽に相談できる窓口の周知が徹底され、早期に利用ができる
- ◆認知症のことを身近なこと、自分事として理解する市民が増える

取 組

- ◆認知症サポーター養成講座の積極的展開(小中学校、店舗等)
- ◆認知症ケアパスを作成し、広く市民に配布する
- ◆一般市民向け認知症フォーラムの開催(事務局案)

④認知症高齢者を取り巻く環境について

課 題

- ◆認知症の理解がまだまだ地域に浸透していないと感じる
- ◆認知症とその家族が利用できるサービスの把握ができていない
- ◆世間体を気にして、認知症であることを地域に表面化することが困難である
- ◆認知症患者に対応する社会的資源が不足している

目指すべき 状態

- ◆近隣住民が認知症を理解し、僅かな変化にも関心を持ち、声をかけられる、又は適切な相談機関につなげられる
- ◆早期に発見し、治療を開始できるよう、認知症に対し手を差し伸べてくれる地域のコミュニティができています
- ◆状態像に応じた社会資源が整っている

取 組

- ◆認知症ケアパスを作成し、広く配布する(再掲)
- ◆認知症サポーター養成講座の積極的展開(再掲)
- ◆認知症対応者養成講座の実施(認友)
- ◆徘徊高齢者の模擬訓練の積極的展開(事務局案)
- ◆コミュニティカフェや認知症カフェの増設(事務局案)
- ◆認知症高齢者のニーズを把握し、整理する(事務局案)

認知症の対応策（4つの柱）

認知症医療の充実

認知症ケアの質の向上

認知症の正しい理解の
普及・啓発

認知症高齢者と家族を
支える仕組みづくり



- 日本一の認知症予防対策のまち「いこま」（市長マニフェスト）
- 認知症になっても安心して暮らせるまち「いこま」の実現！

認知症ケアパスの方向性について(案件2)

【リーフレットor冊子型について】

- ◆ページ数の少ない冊子型の意見が多く聞かれた

【具体的な情報内容について】

- ◆BPSDでの相談先、対処の方法
- ◆相談窓口の連絡先、認知症が気になった時のチェックリスト
- ◆相談可能な医療機関リスト
- ◆老化による物忘れと認知症による物忘れの違いについて
- ◆介護サービスが利用できる施設名
- ◆生活の工夫、家族の対応方法
- ◆市の事業や支援体制(利用できるサービス)

認知症に関する研修企画について(案件3)

【一般向け研修会】

- ◆認知症の病症状についてわかりやすく説明、対応方法含む等
- ◆グランソール辻村病院 院長 中村光利氏(認知症に精通)
- ◆関西福祉科学大学 保健医療学部 作業療法士 横井賀津志氏
(セルフチェックや訓練の仕方、対応の工夫などわかりやすい)
- ◆段階別の対処法を具体的な事例で話す講師
- ◆初期相談や適切な医療機関の情報も含む講話内容と対応方法
についてわかりやすく話す講師
- ◆認知症の予防方法をわかりやすく話していただける講師
- ◆例にある永田久美子氏

認知症に関する研修企画について(案件3)

【一般向け研修会】

◆著名人で介護の経験のある方

例:精神科医 香山リカ氏

漫才師 島田洋七氏(「洋七おかんがばい介護日記」著者)

岡野雄一氏(「『ペコロス』の母に会いに行く」著者)

◆自分事として考えてもらうため、

上野千鶴子氏(「おひとりさまの老後」著者)

認知症に関する研修企画について(案件3)

【多職種連携研修会】

- ◆それぞれの職種の方がどのように認知症患者と関わりを持っているか
- ◆例にある新田國夫先生
- ◆国立奈良医療センター 臨床心理士 東氏
(高次脳機能障害の検査法等について実地臨床経験が豊富)
- ◆認知症の基礎知識
- ◆認知症介護研究・研修東京センター 名誉センター長 長谷川 和夫氏
(長谷川式簡易知能評価スケール開発者)
- ◆諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實氏
- ◆京都認知症カフェ連絡会 会長 川北 雄一郎氏